

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201278		
法人名	株式会社 アース		
事業所名	グループホームもも 清水銀座 1ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区銀座1-18		
自己評価作成日	平成27年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201278-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなが笑顔になる社会」高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせることができる社会づくりを目標に御利用者様を始め、御家族や地域の皆様が安心してサービスを受けた頂く為、常に良いケアの実践が継続出来る様に研修会等に積極的に参加し、「その人らしさ」が損なわれないよう笑顔が頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は清水七夕祭りで有名な清水銀座に位置し、歩いて数分の所にアーケードの商店街がある。管理者は立地の利点を活かし、必要な物は全て地元の商店で入居者と一緒に購入し、地域交流を深めている。フォーカスチャータイング記録(入居者に焦点を当てた系統的経過記録)を行い、個別に行ったケア、ケアに対する反応、注目したことを時間経過毎に記録して全職員が共有し、思いの把握に繋げたり、介護計画作成の参考にしている。職員・看護師が入居者の状態を把握し、医師と連携して家族の協力の下、開設1年で3件の看取りを行っている。看取りを経験して職員の意識は高く、いつ何が起きてもおかしくないと言頃から人格を尊重し、温かく寄り添うケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、理念の共有を実践している。理念の説明は入社時や社内研修の中で伝えまた、毎朝の申送り時に全員で合唱し確認している。	開設時の職員で話し合い「みんなが笑顔になる社会」の理念を作り掲示している。月1回の職員会議で管理者から伝え、「家庭的な雰囲気・プロとしての役割・相手を尊重しコミュニケーションが取れているチーム作り」を目標に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の行事・掃除等に参加。	回覧板のシステムはなく、自治会の月1回の集会に管理者が出席し、配布物をもらい行事などの情報を得ている。入居者と一緒に地元の商店に買い物に行き顔見知りになり交流している。地元の花壇作りや神社の清掃に職員と参加可能な入居者が行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を始め、近隣のケアマネージャーとの交流を図る為に年に数回座談会を設けている。運営推進懇談会時にはテーマを決め研修や相談が出来る様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に一回開催しており、ご意見等に対しては改善策を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	会議は今年度3回開催した。毎回ではないが地域包括・行政職員、自治会長、入居者と家族等の参加があり、現状報告後、看護師から「感染とは」の話や、民生委員から地域サポーター養成講座の要請があり場所を提供することになっている。	年間計画を立て、必要なメンバーの参加を募り定期的に開催して、メンバーの人々が積極的に関わられるよう働きかけていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席を市役所担当者をはじめ地域包括支援センターにお願いをしている。サービス内容の確認時に相談するなど、協力関係を図っている。	開設当初は、介護保険課へ相談することが多かった。更新や申請の際に、窓口に向くことで、担当者と協力関係を作るように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し職員全員が理解しケアを行っている。気が付いた事例はその都度話し合い、内容を記録し職員全員が共有している。	職員は外部研修、法人研修で認識している。月1回のフロア会議で個別にカンファレスを行い、状態の把握をして拘束をしないケアを実践している。ヒヤリハット事例は記録を掲示している。帰宅願望が強い場合は、屋上に出たり商店街を散歩して気分転換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促し、ミーティング時に利用者のケア内容を見直しお行い人権尊重について話し合う機会を持っている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用出来る様に管理者は研修に参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解、納得がして頂ける様に説明を行い、不明な点や疑問、不安な時にはいつでも相談頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望をいただく機会を設けるとともに面会時や電話連絡等でもご意見をうかがうようにして改善策を検討している。当日内容は全家族にお伝えしている。	職員は面会時や電話等で、家族が意見を言い易い関係作りができる様に取り組んでいる。第3日曜日はイベント日とし、誕生会やボランティアの訪問があり、家族と一緒に楽しめるように支援して、家族同士の交流が始まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行っている。内容は記録し職員全員で共有できるようにしている。	職員会議での意見も多いが管理者は日常的に職員から聞いている。帰宅願望の強い人の散歩コースの提案や、シフトの希望等採用されている。開設から1年のため物品購入の要望が多く、屋上のテーブル・椅子等は法人に稟議書を上げ叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業時間については、残業ゼロを徹底している。職員の状況を把握してそれぞれの評価が行われ、個々の力が発揮できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加を促し、モチベーションが維持されるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事例検討会やケアマネ事例検討会等の勉強会の活動に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きし又ご本人の要望や意見を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時からご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事が出来るように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームでは対応できないサービスがご本人、ご家族に必要な場合は、ご本人、ご家族が必要としている、サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等を行うときは共に楽しむ事が出来る様、入居者と介護職員が話し合いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の生活状況の報告をご家族に郵送している。 衣替えの時期やご家族のご協力が必要な時は協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては、ご家族からの協力や情報からいつでも面会できるようにしている。 外出、散歩等は慣れ親しんだ場所に行っている。	入居者は地域の人が多く、馴染みの神社に出かけたり、アーケード街の店主との交流等を支援している。友人・知人が訪問しやすい環境作りをしていて、太鼓の師匠だった人の弟子がボランティアで太鼓や民謡の演奏をしに来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活を送ることができ、他の入居者と交流が図られるように配慮している。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも、ご本人・ご家族からの相談や支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに耳を傾け、思いの実現や維持が出来るように努力している。 安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めている。	1対1になれる入浴時や居室で思いを聞くことが多い。「まんじゅうや」の一言から職員は地図や電話帳を調べて店を探し、一緒に出かけて買って来て皆でおやつに食べた。「家に帰りたい」の思いは、自宅での食事や一泊を家族の協力で行っている。聞いたことは介護記録に記入して共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時からご本人、ご家族また各関係者から情報を得る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、関わっている関係者(医療等)から情報を得よう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から移行を聞き医療関係者、介護職員の日常観察や意見等を取り入れケアプランを作成しご本人、ご家族に説明し承諾を得ている。	更新時の担当者会議で本人・家族・担当職員・管理者・ケアマネジャーが主治医・看護師の意見や個別記録を参考に話し合いをして、ショートドライブをしたい等の本人の意向を取り入れた介護計画を作成している。家族の確認後はファイルし職員は共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータイング記録を行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズに応える事が出来るように努めている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流が出来る様自治会の行事(各祭りごとや防災訓練等)に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望を重視。 それぞれのかかりつけ医との連携を図り心身ともに健康な生活が維持できるように努めている。	月2回協力医の往診がある。かかりつけ医や総合病院に家族と受診する際は、変化があれば手紙で状態を伝えている。緊急時は職員が同行受診して家族に電話で報告し、2回目以降と他科受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況等を看護師にすぐ伝え、相談し適切な受診が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係と連携しご家族を含めた情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化についてご本人、ご家族の意向を確認し終末期や重症化での対応について説明し承諾を頂き、かかりつけ医、訪問看護師等の協力、連携を行いながら取り組んでいる。	入居時に本人・家族の意向を聞き、状態が変化した時点で再確認している。開設1年間で3名の看取りがあった。まず医師と管理者が話してから家族と今後の話し合いをする。医師に指示を仰ぎ随時家族に説明をし、会議で職員に方針を伝えている。管理者は職員と面談し心のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応策は掲示している。 カンファレンス時に再度確認や研修・防災訓練などに参加して対応ができませんように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年3回の防災訓練を利用者と共に行う。 地域の防災訓練にも参加。 運営推進会議時にも防災訓練の報告や情報交換を行っている。	消防署の指導を受けている。地域の防災訓練は、管理者・職員と参加可能な地元の入居者が避難場所の公園に行っている。事業所としての火災・夜間想定等の避難訓練はこれから実施する予定である。	運営推進会議等で外部の人に事業所の実情を伝えるなどし、地域との協力体制作りを構築しながら火災・地震・夜間を想定した訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視してケアを行っている。	職員会議で接遇の話をしていて、入浴・トイレ介助時には羞恥心に配慮した対応に努めている。呼び名は希望に副った名前や苗字であるが、慣れ合いにならないように、丁寧語で寄り添うように対応している。個人書類は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思いを伝えて自己決定が出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のお気持ちを重視して、安心、安全に日々を送ることが出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院を利用して、ご本人のお好みのヘアスタイル、カラーをしている。着替え時の洋服選びはご本人が行っているか職員がご本人に確認しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合い献立をたて調理する機会を設けている。	3食とも管理栄養士による献立の調理品を提供し、ご飯と汁物は職員が作っている。第3日曜日は入居者の希望を聞いて、お寿司やカレー等を手作りしている。遠足でお寿司を食べに行き、ノンアルコールを飲む等もしている。入居者は配膳や盛り付け、食器洗い等できる範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や量を提供し、食事・水分摂取量が把握できるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら、起床時、就寝時、毎食後の口腔ケアを行っている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行っている。	布パンツやリハビリパンツにパッドを使用し、おむつ使用が1人いるが、リズムを把握して誘導しトイレでの排泄を支援している。入所時はリハビリパンツの人が布パンツに移行した事例がある。昔から馴染んでいる男子用小便器のトイレがあり、気持ちに配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や散歩や運動を促し行い、出来る限り自然に排便が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行っている。更衣室、浴室等の温度管理やお湯温には気を付けています。	朝9時から午前中で2~3人が入浴しているが、希望や拒否の場合は午後になる事もある。同性介助の希望は可能であり、重度の人は併設の小規模多機能の機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないように、個々に合った休息時間が確保できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人一人のファイルに入れ、配薬の把握、服薬中の留意点等を把握できるように努めている。 薬に変更があった時などは申し送りノートと申し送り時に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯機の干しや片付けや食事の配膳、盛り付け、片付け、食器洗い、メニュー書き、掃除、縫い物等個々に意欲的に参加できることを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日以外でも、毎日、外出し数回車で出かける。 買い物希望している時は皆さんと出かける時もある。 必要時にはご家族に協力して頂いている。	「行きたいよ」の言葉で近くのアーケード商店街に雨が降っても日常的に出かけている。屋上に出て日光浴を兼ねテーブルでお茶を飲むことがある。駐車場の横でプランター花壇や畑を作り野菜を入居者と一緒につけている。日曜日は日本平や三保海岸等にドライブに出かけている。	

静岡県(グループホームもも清水銀座 1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、家族に協力をお願いして、金銭を所持する事が出来ている。外出時には好きなものを選び購入する機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自ら電話したり、ご家族、ご友人等の電話も取り次いだりの支援を行っている、手紙も同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物などを置き、ゆったりとした家庭的な雰囲気が持てる様にしている。	管理者は自宅にいるような雰囲気を作りたいと飾り付けはシンプルに、入居者が製作した富士山の大きな貼り絵のみが壁にある。木目を強調し色彩に配慮された落ち着いた空間である。屋上は広くテーブルを出してお茶をしたり、夏には日本平の花火を皆で観ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる。 ソファーや椅子に座りゆったりと過ごす時間を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具、好きな物を自由に置いて頂いている。	レンタルベッドの利用や、入居前からの慣習で置き畳に布団を敷いている人も数人いて本人の希望に副っている。筆筒・洋服かけ・テレビ・机と椅子やご主人の写真等持ち込み、自分らしい居心地良い居室になっている。担当職員が家族と連携し、衣替えや荷物の整理整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠はなく、階段なども自由に昇降できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201278		
法人名	株式会社 アース		
事業所名	グループホームもも 清水銀座 2ユニット		
所在地	静岡県静岡市清水区銀座1-18		
自己評価作成日	平成27年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201278-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなが笑顔になる社会」高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせることができる社会づくりを目標に御利用者様を始め、御家族や地域の皆様が安心してサービスを受けた頂く為、常に良いケアの実践が継続出来る様に研修会等に積極的に参加し、「その人らしさ」が損なわれないよう笑顔が頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、理念の共有を実践している。理念の説明は入社時や社内研修の中で伝えまた、毎朝の申送り時に全員で合唱し確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の行事・掃除等に参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を始め、近隣のケアマネジャーとの交流を図る為に年に数回座談会を設けている。運営推進懇談会時にはテーマを決め研修や相談が出来る様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ2ヶ月に一回開催しており、ご意見等に対しては改善策を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席を市役所担当者をはじめ地域包括支援センターにお願いをしている。サービス内容の確認時に相談するなど、協力関係を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の下、研修等に参加し職員全員が理解しケアを行っている。気が付いた事例はその都度話し合い、内容を記録し職員全員が共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加を促し、ミーティング時に利用者のケア内容を見直しお行い人権尊重について話し合う機会を持っている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には活用出来る様に管理者は研修に参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解、納得がして頂ける様に説明を行い、不明な点や疑問、不安な時にはいつでも相談頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際にご意見、ご要望をいただく機会を設けるとともに面会時や電話連絡等でもご意見をうかがうようにして改善策を検討している。当日内容は全家族にお伝えしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に意見交換を行っている。 内容は記録し職員全員で共有できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業時間については、残業ゼロを徹底している。 職員の状況を把握してそれぞれの評価が行われ、個々の力が発揮できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修の参加を促し、モチベーションが維持されるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事例検討会やケアマネ事例検討会等の勉強会の活動に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時からご本人についての情報、生活歴や趣味、嗜好等をお聞きし又ご本人の要望や意見を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時からご家族と連絡を取り合い、不安や要望を話す事が出来るように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームでは対応できないサービスがご本人、ご家族に必要な場合は、ご本人、ご家族が必要としている、サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事等を行うときは共に楽しむ事が出来る様、入居者と介護職員が話し合いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の生活状況の報告をご家族に郵送している。 衣替えの時期やご家族のご協力が必要な時は協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては、ご家族からの協力や情報からいつでも面会できるようにしている。 外出、散歩等は慣れ親しんだ場所に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席はご本人が安心して日常生活を送ることができ、他の入居者と交流が図られるように配慮している。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも、ご本人・ご家族からの相談や支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに耳を傾け、思いの実現や維持が出来るように努力している。 安心して生活が維持できるようにご本人の言葉や表情などの変化を見逃さないように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時からご本人、ご家族また各関係者から情報を得る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、関わっている関係者(医療等)から情報を得よう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から移行を聞き医療関係者、介護職員の日常観察や意見等を取り入れケアプランを作成しご本人、ご家族に説明し承諾を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング記録を行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご本人、ご家族のニーズに応える事が出来るように努めている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内で交流が出来る様自治会の行事(各祭りごとや防災訓練等)に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望を重視。 それぞれのかかりつけ医との連携を図り心身ともに健康な生活が維持できるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況等を看護師にすぐ伝え、相談し適切な受診が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係と連携しご家族を含めた情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化についてご本人、ご家族の意向を確認し終末期や重症化での対応について説明し承諾を頂き、かかりつけ医、訪問看護師等の協力、連携を行いながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故発生時の対応策は掲示している。 カンファレンス時に再度確認や研修・防災訓練などに参加して対応ができませんように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年3回の防災訓練を利用者と共に行う。 地域の防災訓練にも参加。 運営推進会議時にも防災訓練の報告や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重や自尊心の維持を重視してケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がいつでも希望や思いを伝えて自己決定が出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のお気持ちを重視して、安心、安全に日々を送ることが出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院を利用して、ご本人のお好みのヘアスタイル、カラーをしている。 着替え時の洋服選びはご本人が行っているか職員がご本人に確認しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合い献立をたて調理する機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や量を提供し、食事・水分摂取量が把握できるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態で介助を行いながら、起床時、就寝時、毎食後の口腔ケアを行っている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や散歩や運動を促し行い、出来る限り自然に排便が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせた入浴を行っている。更衣室、浴室等の温度管理やお湯温には気を付けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを崩さないように、個々に合った休息時間が確保できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人一人のファイルに入れ、配薬の把握、服薬中の留意点等を把握できるように努めている。 薬に変更があった時などは申し送りノートと申し送り時に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯機の干しや片付けや食事の配膳、盛り付け、片付け、食器洗い、メニュー書き、掃除、縫い物等個々に意欲的に参加できることを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望日以外でも、毎日、外出し数回車で出かける。 買い物を希望している時は皆さんと出かける時もある。 必要時にはご家族に協力して頂いている。		

静岡県(グループホームもも清水銀座 2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせ、家族に協力をお願いして、金銭を所持する事が出来ている。外出時には好きなものを選び購入する機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自ら電話したり、ご家族、ご友人等の電話も取り次いだりの支援を行っている、手紙も同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物などを置き、ゆったりとした家庭的な雰囲気が持てる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる。 ソファーや椅子に座りゆったりと過ごす時間を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具、好きな物を自由に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には施錠はなく、階段なども自由に昇降できるようにしている。		